

■業績

学生運動から全日本自由労働組合の書記となり、「失対闘争」の補完的役割の事業団運動を、永戸祐三・現労協センター事業団理事長たちと30年かけて、今日の労協運動へと大きく飛躍させる中核的役割を果たしてこられた。

現場に密着して課題を掘り起こし、旺盛な研究に裏付けられた独創的な理論構築で、今日の労協運動の社会的認知を獲得する上で多大な貢献をされた。

「センター事業団20年史」（『新たな挑戦が始まる』参照）と「日本労協新聞」縮刷版（全13冊）は、彼の生きてきた歴史でもある。その中で、彼が果たした役割をいくつかの項目を立てて、理論的な業績と活動をたどって見た。

業 績	内 容	論文・問題の提言・翻訳	時 期
協同労働の発見	法制化を夢見て	※事業団運動10年のあゆみ ※労働者協同組合への招待—教科書づくりのために ※全国縦断シンポジウム「雇用不安と労働の未来」 ※「21世紀への序曲—労働者協同組合の新たな挑戦」 ※「協同労働の協同組合」法制化をめざす市民会議の結成に参加	1989年9月 1994年8月 1996年6月 1999年9月 2000年11月
国際連帯の追求	・協議会時代から一貫して、国際連帯を追求。 ・ICA パルベリーニ会長が再三来日。 ・AARP との連帯を実現	※イタリア生産協同組合調査団に参加 ※ネオリオ・ブランディーニ著 翻訳 「協同組合論—イタリアの戦略」 ※S・A ベーク著 翻訳 ICA 東京大会基調報告 「変化期の世界に於ける協同組合の価値」 ※ILO 総会と「協同組合促進委員会」に労働者代表として参加	1983年10月 1985年5月 1992年10月 2001年6月
高齢協運動の構想化と推進	高齢協運動の（原案）の起草と運動の総括・理論化	※中高年事業団（労協）連合会第11回総会「高齢者政策」 ※高齢者協同組合がひらく「協同」の新しい地平（協同総研：研究年報） ※福祉と協同の思想を求めて（仕事の発見No35、発刊35号を総括して）	1990年5月 1996年6月 1999年9月
協同総研の創設	創立時の専務・主任研究員として活躍	※「協同を問う全国集会」、「雇用不安と労働の未来」をコーディネート。労協法案の起草。 ※協同ブックスの刊行 ③労働者協同組合と労働組合 ※労働者協同組合の新原則づくりへの協力	1993年12月 2001年6月
諸集会での名コーディネーター役	「いま協同を拓く全国集会」等での名司会	※長野：協同集会での田中知事・寺島実郎氏との鼎談が好例 ※自治体首長・研修会講師との対談等	
地域福祉事業づくり	夕張問題へのこだわり	※夕張りから全国へ—2007年初めに思う（労協新聞1・15） 「人びとの協同が生み出す地域・暮らし・仕事の再生」	2007年1月
今後のテーマ	理事長退任後のライフワーク	※障害者問題 ※環境問題	